

Leader's TOPICS

環境学習の安全について

安全管理担当理事 濱辺謙吉



◎ 安全確保が第一

私達の環境学習活動は主に小学生が対象ですが、市町村や企業等が開催する環境関連イベントでは一般の方々を対象になります。環境学習の内容は、地球温暖化等の気象環境、電気エネルギー、植物や水生生物の採取と観察、身近な科学的現象の実験、自然科学や工学的な工作等多岐に渡っています。これらの活動は、夫々程度の差はありますが、様々なリスク（起こり得る危険）を内在しています。私達はこれらのリスクを意識して、安全の確保を第一に考えて活動しています。幸い、これまで重大な事故は起きていませんが、今後も起きないとは限りませんので、改めて安全について考えてみましょう。

◎ リスク予知の責任

活動現場では、私達は指導者として一定時間、継続的に参加者を監督する立場にありますので、リスクを予知し、そのダメージを回避、又は排除する義務と責任を負っていると考えられます。例えば、屋外での活動を想定してみます。予め活動現場を下見して周辺の安全を確認



川に入って、生き物捕りに熱中する子供達、安全リスクはどこに？



安全ゴーグルで目を守って実験します。

することも要件の一つです。河川等で活動する場合には上流の影響も考慮する必要があります。又、降雨等の悪天候は思わぬ事故を引き起こすことがありますので、天気予報を理解し、状況に応じてリスクを回避する行動が必要になるでしょう。子供達は夢中になって活動する内に危険な場所に立ち入ったり、見通しが悪い場所に入り込んだりして、その姿を見失うことがあります。子どもたち一人一人に十分目が届く人数のスタッフを配置することや保護者の同伴を求めることが有効でしょう。

◎ 安全へ適切対策

リスクを予知して適切な対策を実施できれば良いのですが、決して容易なことではありません。これを困難にする障害は、曰く「これまで事故を起こしたことは無いのだから」、「皆やっているのだから」、「自分だけは大丈夫」等の楽観的な嘯きです。私達にはリスクが自分に関わるとは考えたくない習性があるようですが、そんな時は「ハインリッヒの法則」即ち「1件の重大事故の基には29件の軽微な事故と300件のヒヤリハットがある」ことを思い出してください。そのリスクを正しく予知し、適切に対策を講じることはとても難しい。無事故を願う対策はいつも多過ぎたり、少な過ぎたりです。どうぞご安全に！